

# 管理職のためのクライシス・コミュニケーション ～危機に直面したときの適切な情報発信～

新型コロナウイルスの感染拡大や災害等の危機発生時においては、的確に情報を発信していくとともに、住民等に必要な行動をとるよう促し、被害を最小限に抑えていくことが重要です。

この研修では、危機管理における管理職の役割、日頃からの行政と住民等とのリスクコミュニケーションのあり方などについて理解を深め、管理職に求められる実践的な危機管理能力の向上を目指します。また、演習では、ミニ模擬記者会見を体験します。

## 研修の ポイント

- クライシス・コミュニケーション\*の考え方を理解する。
- 危機発生時における管理職の役割を理解する。
- 危機発生時に、的確に情報を発信し、住民等に必要な行動をとるよう促し、被害を最小限に抑える能力を身につける。
- 演習（模擬記者会見）を通じて管理職に求められる実践的な危機管理能力の向上を図る。

\*クライシス・コミュニケーション：マスコミへの情報開示を中心とした、事件・事故・災害発生時のコミュニケーション活動。

## 開催要領

日 程

令和3年8月4日(水)～8月6日(金) (3日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

市区町村等の部課長級の職員

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

30人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経 費

10,200円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和3年6月14日(月)まで

※新型コロナウイルス感染症の影響により、申込期限内での申込みが難しい等がございましたら、ご遠慮なくご相談ください。

申込方法

JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。

[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。

※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)に掲載しております。

受講決定

受講の可否については、通常、開講日の約1か月前までに通知をお送りしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2～3週間前までの送付となる場合もございますので、ご了承ください。経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

[e-mail] [kenshu@jiam.jp](mailto:kenshu@jiam.jp) [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和3年

8月

4日(水)

11:00~  
入寮受付・昼食

12:30~  
開講・オリエンテーション

13:00~13:50  
**特別講義** 自治体の危機管理 ～東日本大震災に学ぶ事態対応と復興～

特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所 理事長(相馬市復興顧問) 上 昌広氏  
東日本大震災で福島県相馬市は津波や原発事故などにより甚大な被害を受けました。相馬市長や幹部職員とともに当時震災対応にあたってこられた上氏から、当時の状況や、混乱の中での自治体の対応などについてご講義をいただき、管理職に求められる危機管理のあり方や心構えについて考えていきます。

14:00~16:30  
**講義** オールハザード・アプローチに基づく危機管理とリスクコミュニケーション

日本大学危機管理学部 教授 福田 充氏  
新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害、テロ、ミサイルなどの有事に関するリスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションの基本的な考え方について、オールハザード・アプローチに基づいた危機管理学の観点から考察します。

16:40~17:50  
**意見交換・演習** 日本大学危機管理学部 教授 福田 充氏

講義を振り返り、各自自治体の現状などについて意見交換、グループワークを行います。

18:20~  
**交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

9:25~10:35  
**講義** 危機管理下の情報発信 —マスコミ対応の在り方も含めて—

神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授 安富 信氏  
新聞記者として長く災害報道や事件取材に携わられたご経験をもとに、危機発生時の適切なマスコミ対応のポイントや留意点等について、現場の視点を交えてお話しいたします。

10:50~12:00  
**事例紹介** 自治体における危機発生時の情報発信 ～神戸市の事例から～

一般社団法人日本パラ水泳連盟常務理事(元神戸市広報課長) 櫻井 誠一氏  
阪神淡路大震災時は神戸市広報課長として、また、新型インフルエンザ発生時は神戸市保健福祉局長として対策本部の情報を指揮された豊富なご経験をもとに、危機発生時に、自治体がどのようにマスコミや市民に対して的確に情報発信をしていくのか、具体的な事例を交えてお話しいたします。

13:00~17:00  
**講義・演習** 自治体の危機管理 ～クライシス・コミュニケーションを中心として～①

有限会社エンカツ社 代表取締役社長/横浜国立大学 非常勤講師/失敗学会 理事 宇於崎 裕美氏  
新型コロナウイルス等感染症、自然災害や個人情報漏えい、不正経理、パワハラ、セクハラ、失言、いじめ問題等において、地方自治体の危機管理能力はマスコミや世間から注目されています。そして、実際に危機に直面した際、その被害を最小限に抑えるために「クライシス・コミュニケーション(マスコミやネットユーザーへの情報開示を中心とした、事件・事故・災害発生時のコミュニケーション活動)」が重要な役割を果たします。この時間は、クライシス・コミュニケーションにおけるリーダーの役割と危機管理の基本的な考え方について学び、メディアトレーニング(模擬記者会見演習)を体験します。

9:25~12:00  
**講義・演習** 自治体の危機管理 ～クライシス・コミュニケーションを中心として～②

有限会社エンカツ社 代表取締役社長/横浜国立大学 非常勤講師/失敗学会 理事 宇於崎 裕美氏  
前日の模擬記者会見の振り返りを行います。良かった点や改善すべき点について意見交換を行い、最後に講師から講評をいただき、今後どのように業務に活かしていくか改めて考えていただきます。

12:00~12:30  
ふりかえり、研修アンケート記入、閉講

令和3年

8月

5日(木)

令和3年

8月

6日(金)

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。

JIAMメールマガジンのお知らせ

当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひ登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。